

カサスゲ *Carex dispalata* Boott

カヤツリグサ科 Cyperaceae

1. 利用可能部位：葉

2. 組織形態：

葉は厚みのある膜状で、横断面の外形は中肋から三角形に拡がり、左右中程に折れ曲がりがある縁が広がる (A)。多数の平行脈を持つが、中肋と左右の折れ曲がるカ所には他より大きい維管束がある (A)。葉は基部では中肋を角にして二つ折りの三角形状となる (B)。葉の背軸側の表皮細胞は径が小さく密に配列するのに対し、向軸側では細胞径が大きい (C~E)。細胞間隙が発達し、向軸側と背軸側の表皮間をほぼ等間隔の「梁」が仕切っている。梁は大~小の1本の維管束と柔組織からなり、柔組織中に繊維組織が少し混じる (E)。維管束の位置は大きな維管束では背軸側寄りだが、小さな維管束は中間~向軸側よりとなる (C, D)。大きな維管束では向軸側にひとつの原生木部腔とその背軸側に1対の比較的大きな後生木部道管、その背軸側に更に一次篩部がある (E)。小さい維管束では原生木部道管がしばしば残っており、また後生木部道管の径は小さい。いずれも維管束を取り囲む繊維組織はあまり発達しない。梁のある位置の向軸、背軸両面の下表皮には多かれ少なかれ繊維組織がある (E)。大きな維管束のある梁には繊維細胞が多いが、小さな維管束の梁ではわずかである。

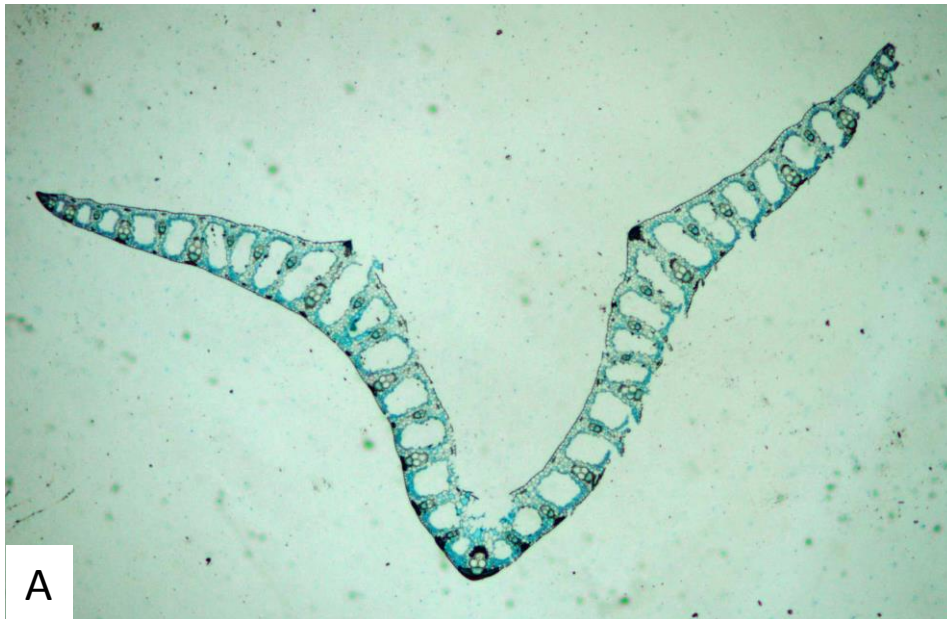
3. 利用例：葉を編んで菅笠にする。

4. 遺跡出土遺物：

(工事中)

図説明

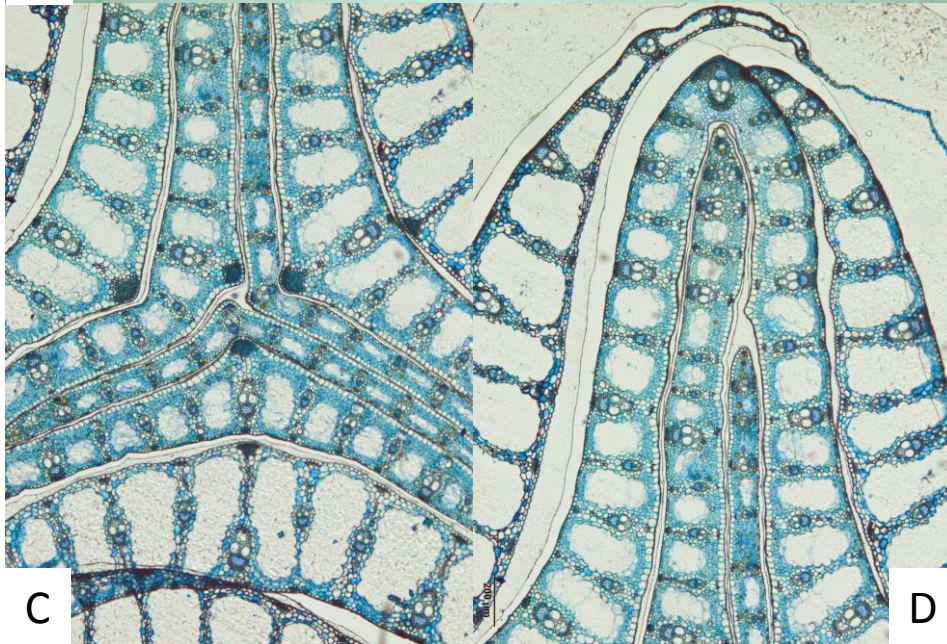
A:カサスゲの葉の横断面。中肋で二つ折りになり左右の中央でもう一度折れ曲がる。葉には細胞間隙が発達し、向軸側と背軸側の表皮を差し渡す「梁」が等間隔にある。B:葉の基部では何枚もの二つ折りの葉が重なって三角形の茎状となる。C:三角形の茎状構造の中心。D:三角形の茎状構造の一つの稜。E:二枚の葉の拡大。維管束は「梁」の部分にあり、大きい維管束は背軸側に、小さい維管束は中間~向軸側にある。



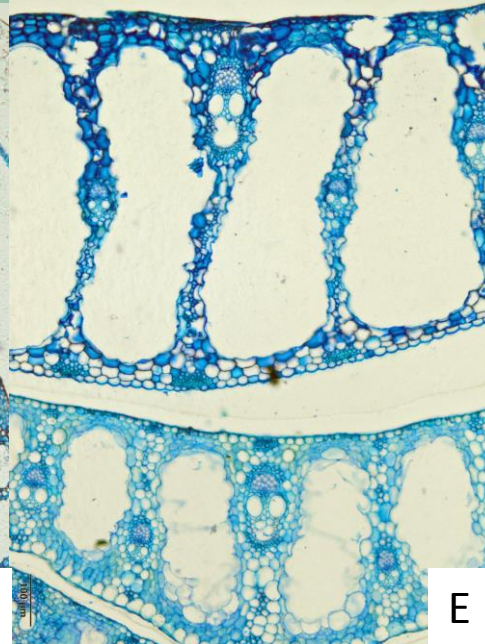
A



B



C



D



E